

## 2023年3月期第2四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

**Q1:** 上期は部材の高騰による原価率の上昇や販促費の増加で営業利益率が前年同期と比較して低下したとのことだが、下期にはどのように改善させるのか？営業利益公表値達成の道筋を示してほしい。

**A1:** 部品調達難やインフレによるコストアップに対し、価格転嫁や部品調達の多角化を図ることで原価率を下げるとともに、経費計画の見直しにより販売管理費比率の改善に取り組みます。

**Q2:** 通信計測事業においてEMEA地域での売上が堅調な理由を教えてください。

**A2:** グローバル企業がEMEAに設置した開発拠点において、5G開発関連やデータセンター関連の計測器需要が出てきています。

**Q3:** アメリカのCバンド需要の状況を教えてください。

**A3:** アメリカではCバンド基地局の建設が始まっていますが、既存のLTE基地局にCバンド5G基地局を追加設置している状況であり、新たな計測器需要を生み出すには至っていません。今後、既存基地局がカバーしていなかった新しいエリアにまで基地局の建設が拡張されると計測器需要が出てくると期待しています。

**Q4:** 部材の調達状況についてアップデートがほしい。

**A4:** 1Qから状況は大きく変化していません。PCやスマホに使われるような部品の供給は改善していると言われていますが、測定器に使用される部品については依然として厳しい状況にあります。

**Q5:** 円安の影響について教えてください。

**A5:** 通信計測事業において、対米ドルで1円の円安により、営業利益を年間約1億円押し上げる効果があります。